

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	luna (ルナ) もりのこびとたち		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 末日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 末日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに合わせた専門的なサポート	お子さまそれぞれの特性をしっかりと理解し、個別の計画に沿った専門性の高い支援を行っています。アンケートでも、多くの方から「納得できる支援を受けられている」と心強い評価をいただきました。	今後もスタッフの研修や勉強会を重ね、支援の質をさらに高めていきます。どのお子さまにも、より細やかなサポートが届くよう努めます。
2	安全で見守りの行き届いた体制	お子さまとスタッフが1対1で密室にならないよう「第三者の目」がある配置を徹底しています。常に複数のスタッフで見守ることで、安全で安心な環境づくりを大切にしています。	送迎時などスタッフが分かれる時間帯でも、常に情報の共有と相互確認を行い、さらに安全な見守り体制を整えていきます。
3	心に寄り添うコミュニケーション	日々の送迎時や面談、電話・メールなどを通じて、ご家族とのやり取りを大切にしています。お子さまの成長や変化と一緒に喜び、共感し合える関係づくりを心がけています。	お忙しい保護者の皆さまとよりスムーズに連絡が取り合えるよう、新しい連絡方法（ICTの活用など）も検討し、絆を深めたいと考えています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりや交流の機会	現在は室内での活動が中心となっており、近隣の公園や児童館、地域の方々と触れ合う機会がまだ少ないのが現状です。	今後は地域のイベントに参加したり、近隣の施設と一緒に活動したりする計画を立て、お子さまたちが社会と触れ合う経験を増やしていきます。
2	事業所内での支援技術の標準化と共有	スタッフ個々の支援スキルや熱意は高いものの、特定のスタッフに知識や対応が偏ってしまう場合があります。支援の意図やノウハウがチーム全体で十分に言語化・共有されきっていないことが課題です。	定期的なケース会議（事例検討会）をより深化させ、誰が対応しても一貫した質の高い支援ができるよう「支援マニュアル」の整備や独自の研修プログラムを充実させます。
3	活動内容の可視化と情報発信の頻度	日々の活動プログラムは工夫していますが、そのねらいや具体的にお子さまがどう成長したかという詳細な情報が、保護者さまへタイムリーに伝わりきっていない側面があります。	ブログなどの発信頻度を見直し、活動の様子だけでなく「この活動にはどんなねらいがあるのか」という意図も含めて可視化し、より安心感を持っていただけるよう努めます。